

氏名	高 木 慎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1306 号
学位授与の日付	昭和57年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	家兎脛骨骨膜遊離移植に関する実験的研究
論文審査委員	教授 田辺剛造 教授 寺本 滋 教授 折田薫三

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腫瘍、外傷などにより広範囲な切除を余儀なくされた顎骨の再建には、従来骨移植が最も適応とされ、骨膜の骨新生力を期待する方法は一般的には行われていない。なかでも遊離骨膜移植の応用は少なく顎口蓋裂への応用の報告をみるのみである。そこで私は切除された下顎骨に遊離骨膜移植を応用し再建する目的で実験的研究を行った。

すなわち生後 1.5 ～ 2 カ月の雌雄家兎 80 羽を用い、下腿部より脛骨骨膜を採取、左右下顎骨間、および下顎骨欠損部へ移植し、骨形成過程を X 線的、肉眼的、光顕的に観察し以下の結果を得た。脛骨の骨膜採取部も病理組織学的に観察した。

X 線的には 1 週目より不透過像が出現し、50 日目には左右下顎骨間ならびに実験的に形成した欠損部を明瞭な不透過像が連結していた。病理組織学的には膜内骨化や軟骨内骨化を示したが、いずれも 50 日目にはほぼ骨新生は完成していた。また脛骨部は骨膜を剥離した隣接部に骨造成がみられた。

以上の結果より、切除された下顎骨の再建に骨膜移植の臨床的応用が期待されることが示唆された。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は下顎骨欠損の補填について、遊離自家骨膜片移植による骨新生により、それが出来ないかという点の家兎を使用しての実験成績報告である。それによると実験的に骨新生が得られたとしている。骨生成過程ならびに、新生骨が実際に有効な機能を有するかという点には、なお多くの問題があるが、下顎骨形成術の新しい方法に端結をつけたものとして、価値あるものと考え、本研究者は医学博士の学位

を得る資格があると認める。